

ポルトガル日本商工会議所主催  
「第一回ポルトガル日本ビジネスセッション（農産品・食品セクター）」における  
東博史駐ポルトガル大使挨拶  
(2014年10月7日)

ヴィエイラ・イ・ブリット農業・海洋副大臣  
ベッサ・ポルトガル日本商工会議所会頭  
ご来場の皆様

本日は、「第一回ポルトガル・日本 ビジネス・セッション」に出席する機会を得て非常に嬉しく思います。今回のセミナー開催のイニシアティブを取られたベッサ・ポルトガル日本商工会議所会頭に感謝申し上げます。また、ヴィエイラ・イ・ブリット農業・海洋副大臣はじめ本日この会合に出席された皆様にも感謝いたします。

今回のセミナーは誠に時宜を得たものであります。本年5月には、安倍総理が、現職の日本の総理として史上初めて、ポルトガルを訪問されました。この訪問は両国関係促進にとって、歴史的・画期的な訪問となりました。首脳会合の後に発出された「共同コミュニケ」にも「食品、農産品、畜産品分野での協力の推進」が挙げられています。コミュニケでは、ポルトガル産の豚肉及びその加工品の輸入解禁を歓迎しております。この解禁によりポルトガル産豚肉の対日輸出の「窓」が開かれました。

また、本年6月末から7月初めに、この「共同コミュニケ」のフォローアップの意味もこめて、クリスタス農業・海洋大臣が訪日され、ポルトガル産の農水産品のプロモーションを実施されました。私は、このプロモーションが大成功であったことをクリスタス大臣から直接伺っております。

今後も、明年の早い段階に、安倍総理の招待を受けパッソス・コエリョ首相の訪日が予定されているほか、これに先立ち11月にはポルタス副首相の訪日の可能性もあります。

私は、昨年10月に当地に着任し、ワイン、チーズ、豚肉、オリーブオイル等、ポルトガルの農産品の品質が高く価格も安価であり、「国際競争力」があることを実感しています。

また、本年2月に開催された SISAB（国産飲料・食品国際サロン）等を視察した際に各業者が対日輸出に関心があることを知りました。また、アブランテシュ市長が、現地の農産品(ワイン、チーズ、オリーブオイル、ハチミツ等)のプロモーションのために訪日するなど、ポルトガル側からの「販売努力」が始まっています。対日輸出促進のためには、この

「販売努力」が最重要であることは論を待ちません。

また、本年7月、東ティモールのディリで開催されたポルトガル語圏諸国共同体(CPLP)サミットにおいて、我が国は、CPLPへのオブザーバー参加が認められました。これは、安倍総理のポルトガル訪問の際の提案によるものです。これにより、我が国とポルトガルは、経済成長が著しいアフリカ、ラテンアメリカ、アジアのCPLP諸国でビジネスを拡大していく「プラットフォーム」を得たとも言えましょう。ポルトガルの農産品や日本の農産品を輸出するに当たって、CPLP諸国での両国の協力も視野に進めていければと存じます。

いずれにせよ、今回の「セミナー」を契機として、ポルトガルの農産品の対日輸出が増加することを期待しています。このため、大使館としてもポルトガル日本商工会議所を初めとする関係機関と緊密に協力していきたく存じます。

また、10月28日には、ポルトガル外務省内講堂にて、「コロキウム 日本・ポルトガル・EU協力」が開催される予定であり、日本企業によるポルトガル経済ミッションが来訪予定であることをお知らせ致します。

最後に、本日の「セミナー」を開催頂いたポルトガル日本商工会議所はじめ関係者の皆様に再度御礼申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

本日は、ありがとうございました。